

社会参画力育成指導実践研究事業 「令和5年度の取組みのまとめ」



大阪府教育庁市町村教育室
小中学校課

令和6年3月

<はじめに>

現在の社会は、「予測困難な時代」が到来しており、子どもたちは、変化する社会に主体的に関わり、課題を見つけ、解決していこうとする力が求められています。そこで、子どもたちの主体的に社会に参画する意識を醸成するために、大阪府では、以下のような取組みを推進することが必要だと考えています。

○児童・生徒が学級や学校の課題を見出し、よりよく解決するため話し合って合意形成を図るような活動を充実させること。

また主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うなど、学級活動や、児童会・生徒会・委員会活動等を通じて子どもの自主活動を推進すること。

○子どもたちがよりよい社会をめざし、身近な家族から、学校、地域へと、自分と社会との関わりを広げながら学習や経験を積み重ね、主体的に社会に参画する力の基盤が身につけられるよう、主権者教育の充実を図ること。

(令和5年度 市町村教育委員会に対する指導・助言事項
(大阪府作成) より抜粋)

このような取組みを進めるためには、各学校においてカリキュラム・マネジメントが実現されていることが欠かせません。そのため、大阪府教育庁が作成した「カリキュラム・マネジメントの手引き」(令和4年度作成)を、本事業の実践校2校において活用し、令和5・6年度の2年間の事業として、主体的に社会に参画する力の育成をめざし、「社会参画力育成指導実践研究事業」を進めているところです。本資料は、事業1年めである「令和5年度の取組みのまとめ」として作成したものです。各校の実態に応じて、是非ご活用ください。

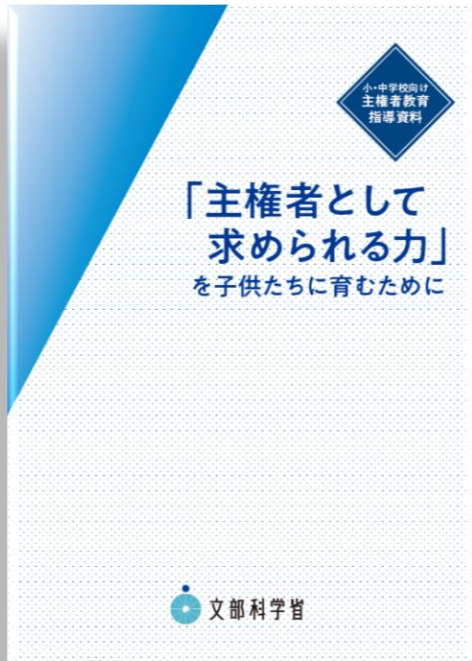


(参考) 大阪府教育庁小中学校課ホームページ
「令和3・4年度 これからの時代に求められる資質・能力を育むための
カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究事業」
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/r0102karimane/index.html>

「カリキュラム・マネジメントの手引き」は上記URLからダウンロードできます。



主権者として 求められる力とは



主権者教育で育成をめざす資質・能力

(知識・技能)

- ・現実社会の諸課題に関する現状や制度及び概念についての理解
- ・調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能

(思考力・判断力・表現力)

- ・現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもって主張するなどして合意を形成する力

(学びに向かう力・人間性等)

- ・自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力



©2014
大阪府もずやん

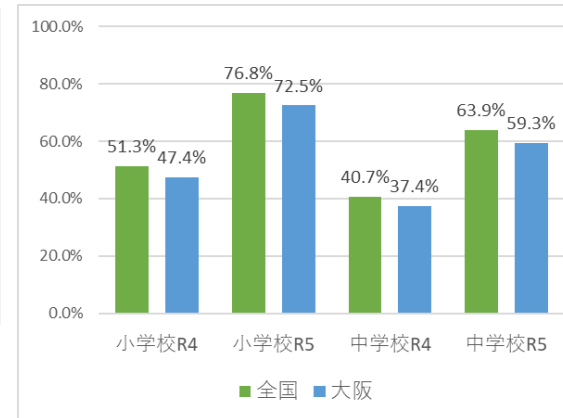
「大阪府の現状と課題」

児童生徒が

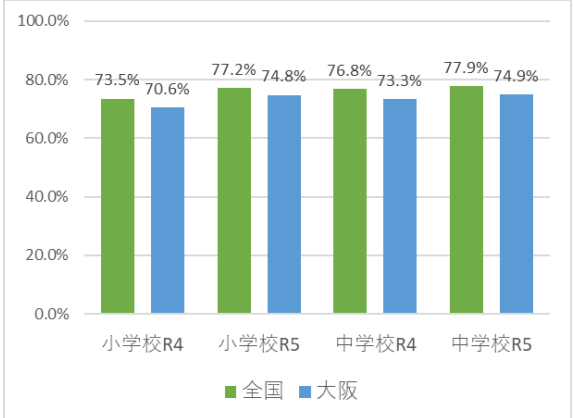
- ◎「よりよい社会の実現を視野に社会の形成に主体的に参画しようとする力」
- ◎「課題の解決に向けて協働的に追求し合意を形成する力」に課題がある

※全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 結果より

地域や社会をよくするために、
(R4) 何をすべきかを考えることがありますか
(R5) 何かしてみましたか



あなたの学級では、学級生活をよりよくするための学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



文部科学省ホームページより

「社会参画力育成指導実践研究事業」を実施

令和5年度の取組みの概要

【目的】

主権者として必要となる資質・能力を育むため、実践研究校を指定し、カリキュラム・マネジメントの観点から教科等横断的な学習により、地域や社会の具体的な課題の解決に協働的に取り組むなど、実社会とのつながりを重視した学習の在り方についての実践研究を行う。

【各実践研究校】「目的に沿ってカリキュラム・マネジメントの観点から教科等横断的な学習を推進」

交野市立第三中学校：（特別活動の取組みを軸として）

「“自治的な力”や“地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力”を高める」

田尻町立小学校：（社会科の学習を軸として）

「よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする力の育成」

主権者として必要な資質・能力を育むために、実践研究校において取り組まれた、地域や社会の具体的な課題の解決に協働的に取り組む等の実践を発信し、府域の学校への普及を図るために、Webフォーラムを以下の要領で実施しました。

【主体的な社会参画の力を育む教育Webフォーラム】

令和6年1月31日（水）リアルタイム開催

（2月8日（木）～3月1日（金）オンデマンド配信）

＜テーマ＞「主体的な社会参画の力を育むために」

＜講義＞中本 和彦 教授（龍谷大学 法学部）

（中本教授には、年2回の実践研究校連絡会でも指導助言をいただきました）



田尻町立小学校

「よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする力の育成」

社会科の学習の中で我が国の産業における現状や課題について、クラス全体やグループなどで議論を重ねながら、よりよい社会について自分なりの考えをもてるように授業づくりを行った。

また、課題をより自分事として捉えられるよう国と田尻町とを対比させながら学習を展開させた。さらに、総合的な学習の時間において、社会科で学習したことを生かしながら、課題解決に向けて自分たちにできることを実際に行うことで、新たな課題にも気づくことができた。よりよい社会の実現に向け、議論を通して、他者と協働しながら考えを行動に移し、また議論を行うというサイクルが生まれるよう社会科と総合的な学習の時間とを関連させるカリキュラム・マネジメントを行い、取組みを進めた。

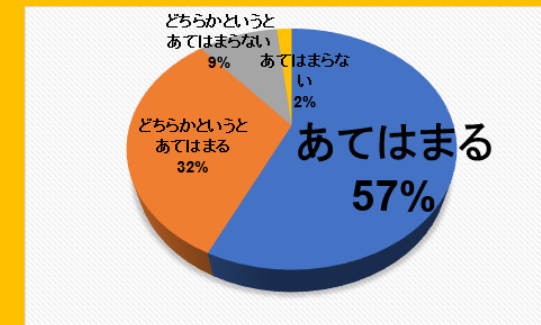
1. 4つの観点を大切にした社会科の授業づくり

(1) 課題と育成が必要な力

本校の課題として、「課題解決に向けて自分の意見を持ち、それを伝えたり実践したり、積極的に考え、行動できる児童が少ない」ということ、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えられる児童が少ない」ということが挙げられる。

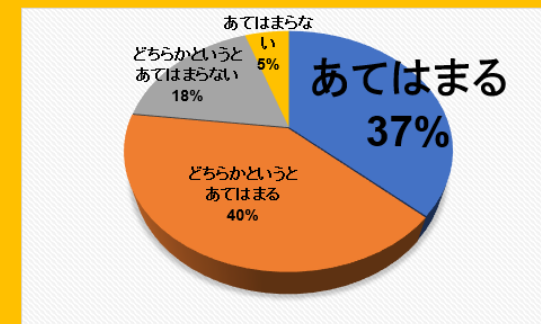
これらの課題から「課題を主体的に解決する力の育成」と「地域の特性を活かして社会参画意識の向上」をめざし、つけたい力を「よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする力」とした。

◆課題解決に向けて、自分の考えを持ち、他の人に伝えることができる児童が少ない



アンケート「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりしている」

◆地域や社会をよくするために何をすべきか考えられる児童が少ない



アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」

課題を主体的に解決する力の育成

よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする力

地域の特性を活かして社会参画意識の向上

(2) 取組みの工夫

社会の授業づくりを、1「現実社会を見て学ぶ」、2「人の働きを見て学ぶ」、3「根拠をもって議論する」、4「自分事としてよりよい社会を考える」という4つの観点から考えた。

「水産業がさかんな地域」の学習（5年生）

現実社会を 見て学ぶ

日頃食べている給食の献立における食材に着目し、自分たちの食生活が日本の水産業に支えられていることを実感することができた。



人の働きを 見て学ぶ

漁業体験で学習したことと関連付けて地域の漁師さんにインタビューをし、話を聞くことで課題や現状を鮮明にし、我が国の漁業・水産業と結び付けて考えることができた。



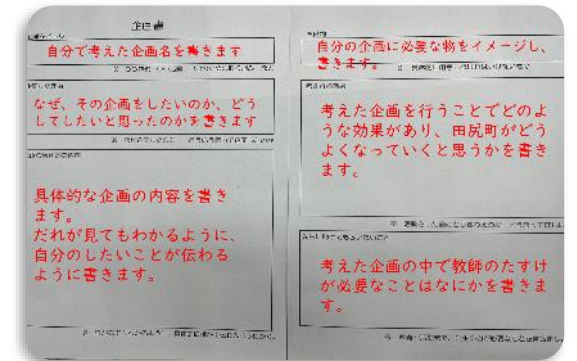
根拠をもって 議論する

漁業生産額を増やすためにどうすればよいかを話し合った。その際に様々な地域の漁獲量のデータ等を用い、根拠を示しながら議論を行った。



自分事として よりよい社会を 考える

議論を行ったあと、自分たちなりの意見をまとめた。「企画書」というかたちで考えをまとめていくことで、より具体的に考えることができた。



現実社会を
見て学ぶ

食料自給率の低下の危険性をより身近に感じられるように、「うどん」を例に食料自給率の割合を可視化したことにより、子どもは興味、関心を強く持つことができた。



人の働きを
見て学ぶ

大人たちが我が国の食料自給率や地産地消に対してどういった考えをもっているのかを調査した。地域で行われている日曜朝市で「どうして朝市に買いに来たのか」など、聞き取り調査を行ったり、朝市で売っているものや働く人の姿を直接見たりすることで、自分たちにできることを考えるきっかけとした。



根拠をもって
議論する

調査結果をもとに食料自給率のデータを他国と比較しながら、これからの日本の食料生産で大切なことを議論することができた。



自分事として
よりよい社会を
考える

議論したことから自分なりの考えや感じたことをまとめ、発表し合い考えを深めた。



（3）成果と課題

＜成果＞ 地域の人々の意見や自分たちの意見を活発に交流し合い、他者の様々な考えや思いがあることに気づき、その中で課題解決に向けて「自分でできることはなにか」という意識が芽生えた。

＜課題＞ 課題解決に向けて自分の考えをもち、話し合いの際に自分の意見を述べるができる児童が増え、議論の活性化が見られた。しかし、具体的な根拠をもって自分なりの考えをもつことが難しい児童もいたので、だれもが興味・関心をもって議論に参加できるような指導の工夫が必要である。

2. 社会科と総合的な学習の時間を相互に関連

(1) 国の課題から地域の課題へ

社会科の学習を通して、よりよい社会の実現に向け、自分たちには何ができるかを考え、何かをしたいという意識を高めることができた。身近な地域に着目し、自分たちなりにできることを考え、行動にうつすことで、さらに社会参画意識も高まり、国全体の課題も改めて考えることができた。

(2) 成果と課題

<成果> 社会科と総合的な学習の時間をはじめとする各教科等との相互の関わりを意識しながら、つけたい力に対応したカリキュラム・マネジメントを行うことができた。

<課題> 探究的に学習を進める中で、「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取り組みが十分でなかったため、探究的な学習の過程をより一層重視する必要がある。

他教科等とのカリキュラム・マネジメント

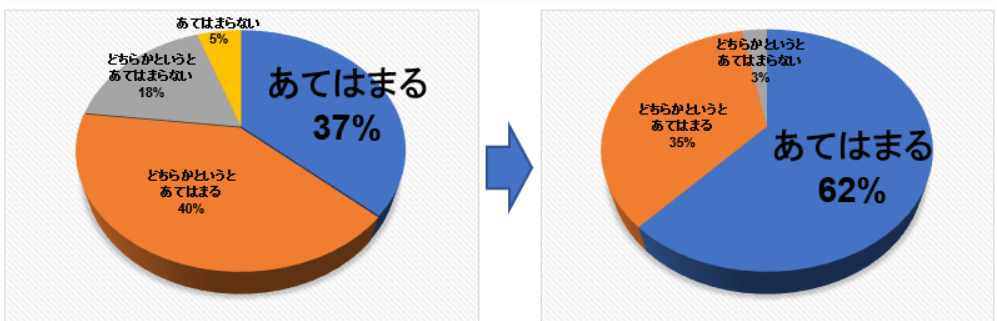
社会科

- ①現実社会を見て学ぶ
- ②人の働きを見て学ぶ
- ③根拠をもって議論する
- ④自分事としてよりよい社会を考える

↓ 行動へ

総合的な学習の時間

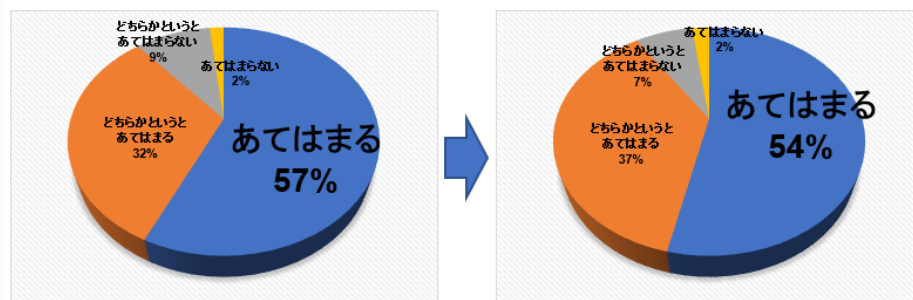
田尻川、田尻漁港をきれいにしたい。	牡蠣のからを再利用したい。	田尻料理をつくりたい。	朝市を盛り上げたい。	ポスターやチラシを作りたい。
・水質調査をする ・川の清掃活動 ・田尻に住む生物の調査	・牡蠣のからで水をきれいにする ・水槽をつかって牡蠣のからの効果を調べる。 ・牡蠣のからをつかってキャンドルを作る。	・田尻でとれた野菜や水産物を使った料理を作る。 ・朝市や地域のお店で売り出す。	・小学生のお店を作る。 ・どんな人がどこからきて何を買っているのか調査する。	・他のグループが調査したことをまとめる。 ・SNSやテレビを活用する。 ・田尻の人に呼びかけてみんなが田尻を良くする。



アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」

我が国の課題や未来について考えることで、地域社会に着目し、身近な環境を大切に、社会に参画しようという意識が芽生えた。

与えられた課題に対して自分なりに考え、文章にしたり他者に伝えたりする様子が見られた。一方、子どもたちがふりかえりをする中で、これまでの活動や講話を自分ごととして捉え、具体的に我が国や地域社会のために何ができるか先を見通して考えることができる児童もいれば、表面的な考えになってしまう児童もいる。話し合い活動を通して、様々な意見や考えにふれ他者の存在との結びつきによって思考を深めさせたい。



アンケート「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりしている」



3. 次年度の取組み計画・・・主権者として必要な資質・能力の育成

(1) 公民学習の分野

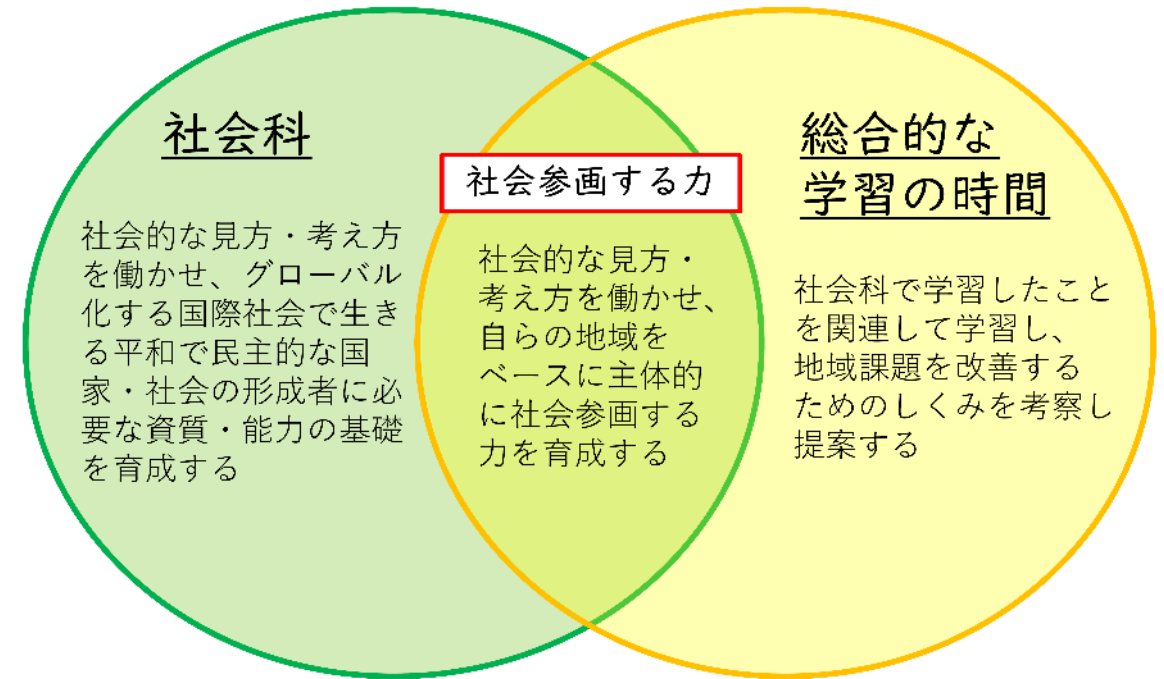
- 「子育て支援の願いを実現する政治」を重点的に学習する単元として設定する。
- 引き続き、社会の授業において、1「現実社会を見て学ぶ」、2「人の働きを見て学ぶ」、3「根拠をもって議論する」、4「自分事としてよりよい社会を考える」という4つの観点を大切にして学ぶ。
- 社会科において学習したことを活かしながら、田尻町における実際の施策の内容等、政治の働きについて、総合的な学習の時間と関連させながら学習を広げていく。

(2) 歴史学習の分野

- 「江戸幕府と政治の安定」をはじめとする、各時代の政治や政策の学習を他教科等とも関連させ、主権者として現代とのつながりを学ぶ。

(3) 総合的な学習の時間等と関連させながら学習を計画する

- 社会科で学習することと田尻町についての学習を相互に関連させることにより、政治や政策をより身近なものとして実感し、自分たちにできることを考えることを通して、社会参画意識の向上を図りたい。



交野市立第三中学校

「“自治的な力”や“地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力”を高める」

特別活動を軸として、「自治的な力」や「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めるため、生徒総会や体育祭に向けての話し合いを中心とした生徒会活動を通じた取組み、職場体験やクリーンアップ作戦をはじめとした勤労生産・奉仕的行事を通じた取組みを実践の柱とした。

話し合い等を通して合意形成を図る際に大切な「他者と協働して取り組むことの大切さを理解する力」や「意見の違いや相手の立場を理解する力」を培い、教科等の学習においてそれらの力を生かす。さらには、教科等の学習において学んだことや育んだ力を特別活動において生かすことができるよう、相互に関連させ、つきたい力を高めるため、学習活動の工夫を行った。

1. 「自治的な力」を高めるための実践

(1) 課題と育成したい力

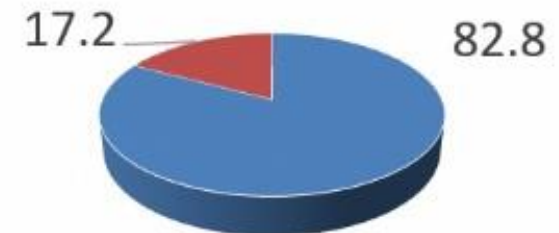
令和4年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の「主権者として必要な資質・能力」に係る質問項目についての結果は、以下のとおりであった。

全国平均と比べて6ポイント高いものの、生徒が学級・学校の課題を自分事として捉え、その解決に向けて、他者と協働しながら課題の解決に向けて協働的に追究し、合意形成を図る「自治的な力」を継続的に高めていくこととした。

特別活動を軸とした取組み



「令和4年度全国学力・学習状況調査」
あなたの学級では、学級生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。



■ 肯定的回答の割合 ■ 否定的回答の割合

(2) 取組みの工夫…「生徒総会」「体育祭」

生徒会活動で大切にしている合意形成の筋道は…「原案作成→討議→決定→実行→総括」

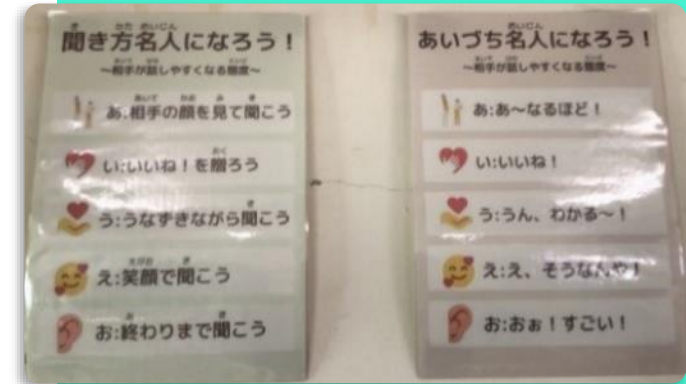
【生徒の主体性を引き出す工夫】

「生徒総会」の資料や「体育祭」におけるルール等は、生徒会や教員から一方的に示すのではなく、各学級において意見や修正案を考える機会を設定し、それらを反映させたものを示し、生徒一人ひとりが、「生徒会活動」や「体育祭」に主体的に参画ができるように工夫した。

【話し合い活動における工夫】

学級活動において話し合いをする際、以下のような工夫を行い、話し合い活動の充実を図った。

- ①「相手を想って伝える力・共感的に受け止める力」を育む「学び合い」の実践として日々の学習で取り組んでいる「聞き方名人・あいづち名人」を活用する。
- ②合意形成の観点（意見を出し合う・くらべ合う・まとめる）や多様な意見を生かして、他者と協働して取り組むことの大切さについて指導する。
- ③話し合いは、生徒が司会を務め議事・運営を進めるが、話し合いの内容が目標から離れた時、提案理由が明確でない時や話し合い活動が混雑した時等には、その場で指導・助言をする。



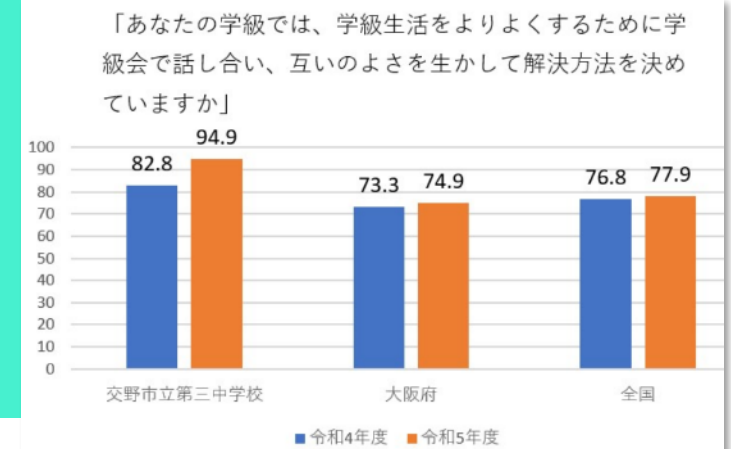
(3) 成果と課題

<成果> 生徒アンケートでは、取組みにより高い肯定的回答の割合となった。

「生徒総会」の資料や「体育祭」におけるルールの内容について、生徒一人ひとりが、集団（社会）をよりよくするために何が出来るかを主体的に考え、行動する力や意見の違いや相手の立場を理解する柔軟性を高め、他者と協働する力が高まった結果だと考えている。

教職員からは、「自分たちの学校を自分たちでよりよくしていこうという生徒の意識を高めることができた。」「自分たちの意見で行事の内容をよりよく変更することができることを学び、主権者としての意識が高まったと思う。」という反応があり、教職員も取組みによる成果を実感した。

<課題> 「体育祭」実施後の振り返りにおいて、一部の学級からは、体育祭において観覧ルールを守れていなかったという総括が出ていた。合意形成の際、否定的な意見を建設的に役立てるような指導の工夫が必要である。



2. 「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めるための実践

(1) 課題と育成したい力

令和4年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の「主権者として必要な資質・能力」に係る質問項目についての結果は、以下のとおりであった。

全国平均と比較すると2.5ポイント高いものの、十分満足できる数値ではなく、改善の余地があるものと考え、生徒の「地域の課題を自分事として捉え、その解決に向けて、他者と協働しながら課題の解決に向けて協働的に追究する力」や「よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を育む実践に取り組んだ。

(2) 取組みの工夫

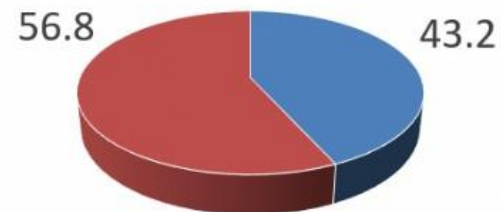
①「地域の在り方」の学習

社会科の「地域の在り方」の学習において生徒が住んでいる交野市を題材として、交野市の特色や良い点について調べたり、交野市のさらなる活性化に向けて必要なこと等について話し合ったりさせた。

【目的】

- ・特別活動の「勤労生産・奉仕的行事」（職場体験学習・クリーンアップ作戦）に社会参画意識を持って主体的に取り組めるようにする。
- ・交野市のさらなる活性化のために、特産品を増やすため、地域の企業と連携・協働した新商品の開発に取り組む実践につなげる。

「令和4年度全国学力・学習状況調査」
地域や社会を良くするために何をすべきか考えることはありますか。



■ 肯定的回答の割合 ■ 否定的回答の割合



②「新商品の開発」

地域の企業と連携・協働した商品開発に取り組んだ。

【商品開発のねらい】

- ・交野市の特産品を活用した商品による地域活性化
- ・地産地消による食品ロス解消 等

【学習活動】

- 地域の課題解決をねらいとする商品開発に向けて、案を話し合う。
(地元洋菓子店の協力) : 地産地消の取組み等についての講話
- 地元特産品を活用した商品案を考え、プレゼンテーション
→生徒同士の話し合い、相互評価により商品決定
(地元洋菓子店シェフも専門的な観点から審査に協力)
- 生徒が考えた新商品を地元洋菓子店の協力を得て実際に商品化
- 生徒が考案した商品『星のまちジャム』が、令和6年2月より実販売された。



販売計画

1個1個瓶で販売する

レジの近くに置いて、みつけやすくする

値段 450円

瓶を次に買う時に持ってきたら50円引きになるサービス



おりひめちゃん



星のあまん

特別活動における「生徒の主体性を引き出す工夫」「話し合い活動における工夫」として、合意形成の観点や多様な意見を生かして、他者と協働して取り組むことの大切さについて指導したことにより、商品開発に向けて学級のグループで話し合いをする場面や学級の代表案を決定する合意形成の場面において、学んだことを活かすことができていた。

③「職場体験学習」

【指導の工夫】

- ・社会科の「地域の在り方」の学習と関連付け、交野市の特色や課題を把握する学習とつながるようにした。
- ・教科等横断的な学習により、地域課題の解決を自分事として捉えられるようにし、社会参画意識を持って主体的に職場体験学習に取り組めるようにした。

【取組み】

- ・事後学習で、「各事業所についてのポスター作成」「地域の活性化につながるチラシ作成」等を行い、体験学習で学んだことを活かし、地域課題を解決したいという社会参画意識の向上につなげた。
- ・地域の活性化のために、保護者と地域をつなげる
→参観日に職場体験学習交流会を実施（地域の課題や体験して学んだこと等を発表）



(3) 成果と課題

<成果> アンケート結果から「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めることができたと考えます。

<生徒の振り返りより>

（「地域の在り方」の学習）

「交野市のいいところは、いっぱいあるので、もっと交野市について知ろうと思った。」
「交野市の魅力を知り、自分たちが未来の交野をつくれるようになりたいと思った。」

（「新商品の開発」）

「学級の人が相づちをうちながら、プレゼンを聞いており、良いプレゼンをするためには、良い聞き方と良い話し方が大切なのだということに気づいた。」
「それぞれの学級の商品に工夫があって、すごくたくさんの学びがあった。」

（「職場体験学習」）

「地域とのつながりを大切にすることは大事であるということを学んだり、交流を深めていくことの大切さを知ったりすることができた。」
「自分自身が地域の一員だからこそ、困ったときは助けを求めたり、それぞれの経験や特性を活かしたりして、役割を分かち合おうと思った。」

<令和5年度社会参画についてのアンケート>

あなたの学級では、学級生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。

94.9%の
肯定的回答の割合



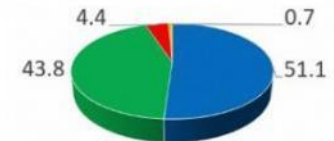
- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

事後

<令和5年度社会参画についてのアンケート>

地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか。

94.9%の
肯定的回答の割合



- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

事後

3. 次年度の取組み計画

(1) 「自治的な力」を高めるための実践について

①ねらい

- 集団（社会）をよりよくするために何ができるかを主体的に考え、行動する力を高める。
- 意見の違いや相手の立場を理解する柔軟性を高め、他者と協働する力を高める。

②取組み

- 生徒会活動や学級活動を通じた取組みにおいて、学校や学級における生活をよりよくするための課題や改善点を生徒が主体的に見出し、課題を解決するために話し合いをする機会を設定する。

(2) 「地域の課題を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に参画しようとする力」を高めるための実践について

①ねらい

- 現状を分析し、課題を解決する力を高める。
- 他者と協働して物事に取り組む「チームで働く力」を高める。
- 新しい価値を生み出す創造力を高める。

②取組み

- 令和5年度に生徒が開発した商品の販売状況等について考察し、現状の課題分析から改善策を見出す機会を設ける。



「星のまちジャム」
2月には、生徒たちが考えた新商品が、実際に販売されました。
大勢の保護者や地域の方が、お店に買いに来てくださいました。